

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度 第4回大潟区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ・協議事項（公開）

（1）令和4年度地域活動支援事業（大潟区）の採択・補助額について

（2）自主的審議事項「大潟健康スポーツプラザ鶴の浜人魚館の利活用促進について」

### ・その他（公開）

## 3 開催日時

令和4年6月16日（木）午後6時30分から午後8時25分まで

## 4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、金澤信夫、君波豊、佐藤忠治（会長）、新保輝松、  
関清、土屋郁夫、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之（副会長）、  
細井雅明、山岸敏幸（14名中14名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、  
平野市民生活・福祉グループ長、布施教育・文化グループ長、風間班長、  
水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

## 8 発言の内容（要旨）

### 【柳澤次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の

出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：五十嵐郁代委員に依頼

【佐藤忠治会長】

それでは、3協議事項（1）令和4年度地域活動支援事業（大潟区）の採択・補助額について協議する。採点結果等について事務局から説明してもらう。

【水澤主任】

資料No.1－1により説明。

【佐藤忠治会長】

ただ今、事務局から説明があった。6件の提案事業のすべてで、大潟区の採択方針に適合するとした委員が2分の1以上であり、かつ、共通審査の平均点も12.5点以上となった。この結果を踏まえ、6件の提案事業のすべてを「優先して採択する事業」として補助額の検討に入るということでよいか。

（一同了承）

では、6件の提案事業のすべてを「優先して採択する事業」として、補助額の検討に入る。補助額案等について事務局から説明願う。

【水澤主任】

資料No.1－2により説明。

【佐藤忠治会長】

事務局から説明があったが、6件の提案事業のすべてが「優先して採択する事業」であり、共通審査の平均点も12.5点以上であることから、補助額案は提案団体の希望額どおりとなっている。意見、質問はあるか。

（一同無し）

それでは、6件の提案事業について採択すること及び補助額について原案のとおり決するというのでよいか。

（一同了承）

以上で6事業の採択及び補助額が決定した。次に、提案者に対して付帯意見があれば特記事項として提案者に要望したいと思う。特記事項案について事務局から説明しても

らう。

**【水澤主任】**

資料No.1－3により説明。

**【佐藤忠治会長】**

事務局の説明のとおり、担当部署からの所見を基に特記事項案としている。意見、質問はあるか。

(一同無し)

特記事項について、原案のとおり決するということでよいか。

(一同了承)

それでは、これら付帯意見を「特記事項」として提案者へ連絡する。以上で、6事業の補助額及び特記事項が決定した。この結果を総合事務所から提案者に通知してもらおう。

次に、協議事項(2)自主的審議事項「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進について」協議を行う。6月13日月曜日に検討会を開催し、今後のスケジュール等について検討した。その結果について土屋委員から取りまとめてもらったので報告してもらおう。また、土屋委員から前回の協議会時にスケジュール案の作成及び先日の検討会時においても取りまとめをしてもらったことから、進行もお願いしたい。

**【土屋郁夫委員】**

鵜の浜人魚館の利活用促進について、6月13日月曜日18時30分から地域協議会委員8人と事務局とで打ち合わせを行った。要旨を簡単に3点にまとめた。まず、自主的審議の結論をいつまでにどうまとめるかということに意見を出し合った。事務局から、自主的審議には4つの方向性があることを聞いた。「自分たちで何とかする、意見書の提出、元気事業、審議したがアクションをせずに終わる。」の4つである。地域協議会には別件で前々回に市から示された2点の要求事項が出ているので、そちらにも着手する必要がある。そのため、自主的審議の内容は9月に提言するのが良いという話になった。地域でのワークショップを行っていけば、こういった内容の提言になるか方向性が出るのではないか。それを受けて、2点目として限られている時間の中で誰とのワークショップを優先して行うかということだが、まずは町内会長協議会と地元の市議会議員が良いとなった。理由として、町内会長協議会は令和2年度に市長宛に意見書を出している。地域コミュニティ団体である町内会長協議会からは地域協議会と会合を持ちたいとの話

もあった。お互いに共通認識をもって鵜の浜人魚館の利活用促進について検討できると良い。地元の市議会議員にも出席してもらって状況を認識してもらいたいという話になった。3点目として、SNS、情報発信など人魚館側がやってほしいことはどうするか。住民とか有志に呼びかけるのも一案であるが、別途、検討とすることとした。補足として、2点目の町内会長協議会や市議会議員とのワークショップだが、人魚館の担当者からは出席いただかなくてもいいのではないかととなった。理由として人魚館の意向等は聞いているので地域協議会から町内会長に伝えることでいいという話になった。検討会の出席者で補足があればお願いしたい。

**【熊木所長】**

1点訂正させていただきたい。先日の検討会で自主的審議の4つの方向性について誤って伝えてしまった。1つは地域内での解決に向けた活動。これは地域内で対応するということである。2つ目として、地域活動支援事業の活用。3つ目が地域を元気にするために必要な提案事業。4つ目が意見書の提出である。地域活動支援事業は今年度で終わるので、今後は3つの方向性となる。

**【土屋郁夫委員】**

地域活動支援事業の活用が無くなるので3つということか。

**【熊木所長】**

そうである。

**【土屋郁夫委員】**

「自分たちで何とかする」は、正式には地域内での活動ということか。

**【熊木所長】**

地域内での解決に向けた活動である。

**【土屋郁夫委員】**

続いて、人魚館から出た意見のまとめを五十嵐郁代委員から説明してもらおう。

**【五十嵐郁代委員】**

人魚館との意見交換で出た意見をまとめた。人魚館からは「応援してほしいところはたくさんある。取り組めるものは取り組んで応援いただきたい。」ということで、人手の不足しているところとPRが不足しているところが大変だと感じられている。PR不足については、インスタグラムやフェイスブックといったSNSの活用ということで発信

できるボランティアを募ることも一つの案であると検討会でも話が出たが、具体的な案は出ずに終わっている。

**【土屋郁夫委員】**

支払方法、カフェを充実、町内会との連携、県立大湊水と森公園との連携企画などの意見は地域協議会委員からでたものか。

**【五十嵐郁代委員】**

そうである。大湊区地域協議会と鵜の浜人魚館職員との意見交換会で出た意見である。

**【君波豊委員】**

町内会との連携という意見は、前段で説明のあった町内会長協議会とのワークショップなどに関連するということによいか。

**【五十嵐郁代委員】**

そうである。

**【君波豊委員】**

大湊区の町内会か。

**【五十嵐郁代委員】**

そうである。

**【佐藤忠治会長】**

人魚館との意見交換会で「吉川区のゆっつりの郷のように温浴施設の受付を通らずレストランに入れるようにしたらどうか。」と意見を言った。人魚館側も半分同意されていたのではないかと思うが費用が掛かると言っていた。

**【土屋郁夫委員】**

資料に追加しておいていただきたい。質問等はこれで終了し、今後どうしていくかを協議したい。私が皆さんの話をまとめていくので、五十嵐郁代委員から進行をお願いする。

**【五十嵐郁代委員】**

今後のことや、検討会や人魚館との意見交換会で出た意見をまとめてもう少し精査していきたい。自主的審議事項をどのようにまとめていくか。土屋委員は9月までに提案されている。時期、どのようにまとめていくかについて意見をいただきたい。その前に事務局に質問がある。自主的審議事項で具体的に話が進んでいって、地域を元気にす

るために必要な提案事業に出したいとなった場合、より具体的にまとめたほうがいいのか。単なる意見書ではなく、もっと具体的に「このように実施します。」というような事業計画書に近いものを出すということか。

**【熊木所長】**

そこまで出していただけるといいが、その手前でどのような内容かをお話しいただき、関係課と協議をしていかないといけない。計画書まで作成できればそれに越したことはないが、その手前で関係課と話をすることが大事である。

**【五十嵐郁代委員】**

頸城区では具体的に事業概要書という形で出ていると思うが、そのような形でいいということか。

**【熊木所長】**

最終的にはそのような形になると思う。入り口の段階でそこまで出来ていれば有難い。

**【五十嵐郁代委員】**

今までまとめてきた中で出た意見をさらに人魚館に伝えるとすると、かなりいろいろな意見が出されているため、あまり精査しすぎると意見としてさっぱりしたものになるような気がする。その辺りのさじ加減がなかなか難しいと感じている。どういったまとめ方をすると効果的というか、私たちが今まで検討してきた中身がより伝わり易いかということも踏まえてご意見を出していただけるとよい。

**【佐藤忠治会長】**

13日の検討会でも話があったが、明日17日に町内会長協議会の会議があるとのことだ。ここで町内会長協議会との話し合いが決まれば、明日、事務局から町内会長協議会に伝えていただき、時期等を煮詰めていく方向になると思う。そういう点では、町内会長協議会との連携をここで決めていただきたい。令和2年度に公の施設の温浴施設について存続してほしいという意見書が町内会長協議会から出されたと聞いた。具体的な人魚館に対する必要性や利活用について時間を掛けて協議していないようである。その点を踏まえて、町内会長協議会とどのようなテーマで協議をするのかを今日の地域協議会で決めてはどうかと検討会で意見が出た。その辺りもまとめていただきたい。

**【土屋郁夫委員】**

検討会では、町内会長はいろいろな意見も集められるし、いろいろな意見も聞いてい

るだろうから効果的ではないかという意見が出た。検討会に参加されていない委員の賛同を頂ければ、6月後半から8月くらいまで何回か話し合いの場を持つとか、あるいは1回開催した中で違うところから意見を聞くなどしたい。とにかく町内会長との話し合いをするかどうかだけでも意見をいただきたい。熊木所長に質問だが、町内会長協議会が以前提出した意見書を我々が見ることはできるのか。

【熊木所長】

請願書であったと思う。そのため市から回答はされていない。

【佐藤忠治会長】

次回でいいので確認したい。

【熊木所長】

施設の耐用年数までは存続させて、その時点で見直すという内容であった。

【関清委員】

その請願書が提出されたのは何年ごろか。

【熊木所長】

令和2年である。

【五十嵐郁代委員】

今日、検討していただきたいのは自主的審議事項をどのようにまとめるかということと、誰とワークショップをやるかということである。誰とワークショップをやるかによって出る意見が変わってくると思うので、それによってまとめ方も変わってくると思う。ワークショップを優先して行うにあたり、意見の出ている町内会長協議会との意見交換会を行うことに対してどのように思うか。

【中野幹根委員】

22人の町内会長にいきなり話を出して、詳しく突っ込んだ話が出てくるのかと思う。もちろん実施することはいいと思うが、町内会長にも温度差がかなりあると思う。

【山岸敏幸委員】

町内会長協議会とのワークショップもいいと思うが、もっと若い年代の方とのワークショップをやる必要があると思う。できれば女性の意見が聞きたい。

【濁川清夏委員】

町内会長協議会にこれをぶつけてみてもどうなのかと思う。令和2年度に市長に請願

書を出されたとのことだが、これは人魚館のことで出したのか。

【佐藤忠治会長】

そうである。

【関清委員】

設備が痛む段階まで継続してほしいということだ。

【濁川清夏委員】

人魚館は、あまり乗り気でないのではないか。我々が審議して出したアイデアに全く反応がなかったのが正直がっかりしている。「あれをするにはお金が掛かる。これをするには人が足りない。」という話ばかりである。意識改革が必要である。

【佐藤忠治会長】

市長との意見交換会には若い方も参加していた。鵜の浜温泉組合の若手の人も参加していて、「鵜の浜温泉組合も高齢化しており、海水浴シーズン前の砂浜の整備が大変であり市からも援助いただきたい。」と話していた。上越市唯一の温泉街であるので、市からも観光政策として援助していただきたいとのことだ。市長も「大事な観光施設であるので、大潟区総合事務所をはじめ皆さんで検討いただきたい。」と言われていた。我々が取り組んでいることにいい反応であったと感じた。

【関清委員】

市長は観光施設としての認識であったということか。

【佐藤忠治会長】

そうである。

【関清委員】

普通プールにはウォーキングコースはなく競泳用のコースで設定されている。人魚館には歩くためのコースが1コースきちんと指定されている。そういった意味では、やはり健康という強い意識が働いていると思う。上越市には何か所かプールがあるが、歩くコースを指定しているところはない。これはひとつのポイントではないかと思う。

【五十嵐郁代委員】

今意見として、観光施設と地域の人のための健康増進の施設という2方向からの視点がある。2方向あることで意見交換する相手が変わってきてもいいのではないかと思う。町内会長協議会でなければ、どのようなところと意見交換をすれば違う側面の意見が拾



えるのかというところで皆さんの意見が出ればいい。五十嵐公子委員は、今実際に健康教室をやられているが、そこでの利用者目線で感じることはあるか。

**【五十嵐公子委員】**

今人魚館で教室を持たせていただいている。プールは利用者が少ないということもあるが、施設の老朽化ということでボイラーを止めたりしている。そうするとさらに足が遠のくということになる。皆さんに聞くと、教室をやっているときだけ営業時間が9時までである。それだと言いたくても行けないという人もいる。教室を休むと違う日に入浴券だけが出るが、言いたくても9時までやっていないと使えないなどいろいろな意見がある。利用しにくいという声が挙がっている。私の教室は参加者が増えていて有難いが、いろいろな意見を聞くと営業時間が限られているので以前のように戻してほしいという声は挙がっている。観光面か健康面かというところでワークショップの相手が変わってくるとの話があったが、健康面から言うと一部に限られてしまうと思う。町内会長協議会でも意見交換をしたいという話があったとのことでもあるので、それを進めていくのがいいと思う。

**【五十嵐郁代委員】**

我々はこうやって話し合いをしていて、ある程度こうしたらいいのではないかという意見も出ているが、これをそのまま町内会長協議会にぶつけると難しいと思う。町内会長協議会と話し合うテーマ、ポイントなどこれを話し合えば共通認識を持てるというのがあればいいと思う。

**【五十嵐公子委員】**

人魚館が小中学生に壁画作成をお願いしたいという話が出ていた。難しいかもしれないが、若い意見として小中学生と人魚館についての意見交換をするのもいいのではないか。

**【山岸敏幸委員】**

町内会長協議会との意見交換会は難しい問題もあると思う。副会長は町内会長もされているがその辺りの認識をお聞かせいただきたい。

**【俵木晴之副会長】**

町内会長協議会のほうで、地域協議会と意見交換をしたいとのことであるが、どのようなことについての意見交換をしたいのかを確認をしないといけないと思う。我々から

このことについて投げかけることはできるが、町内会長協議会がそこまで考えているかわからない。まずは、町内会長協議会が何について意見交換をしたいのかを確認しないと厳しいのではないかと思う。

**【佐藤忠治会長】**

市長との懇談会の場で隣に町内会長協議会長が座った。そこで「地域協議会と町内会長協議会が話し合いをして地域の課題を出し合い、地域協議会が課題解決に向けて自主的審議事項を行っている新聞記事を見る。是非、大潟区でも話し合いをしてもらえないか。」という話があった。地域の課題等について、それぞれの町内会また大潟区全体について考えておられるので有難い。

**【五十嵐郁代委員】**

地域の課題として、人魚館の現在の状況について話し合いをするとういことか。

**【佐藤忠治会長】**

ひとつとしては人魚館のこと、また町内会長が大潟区全体のことで課題であると思っていることを話し合う。町内会長は、毎年要望事項をまとめて市に提出している。それで終わっているの、地域の課題を地域協議会にも知ってもらいたいというのがあるのではないか。

**【五十嵐郁代委員】**

町内会長協議会と市の課題について話し合うのはいいと思うが、その中で人魚館のことを話し合うのか、主として人魚館のことを話し合うのかによって中身、主観が違ってくる。地域の施設がなくなってしまうがそれでいいのかということであれば、話し合いをする価値があり意見が出てくると思うが、総合的な話をするのであればどうなのか。

**【佐藤忠治会長】**

今回は人魚館の存続あるいは利活用について話し合い、今後機会があれば地域の課題について協議することに繋げていけばいいのではないか。

**【君波豊委員】**

これまで大潟区連絡会議で地域課題等について情報交換してきた経過もある。公の施設の適正配置計画が出た時に、当時の大潟区町内会長協議会長が「これは大問題だ。」と取り上げて文書を整理した。また、大潟区町内会長協議会長としてパブリックコメントにも応じている。当時、まちづくり大潟の広報誌でも特集している。鶯の浜人魚館が公

の施設の適正配置計画の中で譲渡や貸付されると困るということが地域協議会の中で問題になっているわけである。我々で協議して答えを出すのもいいが、当事者である鵜の浜人魚館、関係する団体の意見を聞くということであったので、町内会長協議会あるいは町内会長協議会の役員と「人魚館をどうする。」ということで話し合ってみるということが必要であると思う。個人的に言わせていただくと、人魚館の温浴施設は歴史的に見ても他の温浴施設とは違うと思う。これは、温浴施設を造ろうと思って造ったわけではなく、帝石のガス開発の時に温泉が出て、それが共同浴場になり、それが人魚館に転じていった。そういったこともあるので地域に住む我々にとって存続してほしいという気持ち強い。町内会をまとめている町内会長と率直な意見交換があつていいと思う。

**【五十嵐郁代委員】**

君波委員からいろいろな意見を出していただいたが、それについてどうか。

**【山岸敏幸委員】**

そういうことであれば検討会も進めているし、やってみなければ前に進まないのだから、やってみて、その結果によってまたどうするか決めるという方法もあるのではないかと。

**【五十嵐郁代委員】**

山岸委員からとりあえず町内会長協議会と話し合いをしたらどうかという意見も出ているが皆さんいかがか。

**【金澤信夫委員】**

確かに前に進むのはいいと思う。だが、私は地域協議会委員と町内会長の両方を兼ねているが話し合いの筋がよく分からない。地域協議会との話し合いに賛成したのは、土屋委員が「これから我々が何かをやろうとしたときに、地域協議会だけでなく町内会長協議会も巻き込んで話し合いをしておくと、実際に動くときに周知や協力を得るときにやりやすいので共通の認識で進めたほうがいいのではないか。」という意見が出たので少し賛同した。そういったことを考えると話し合いをしたほうがいいと思う。全員集めるのではなく、まずはそれぞれの会長、副会長や役員でどういう話し合いをするかという方向性を決めてから場を設けないとうまくいかないと思う。

**【五十嵐郁代委員】**

金澤委員から「まずは役員同士でどういった話し合いにするかを協議してから進めたほうがいい。」という意見が出たがそれについてどうか。

(一同了承)

皆さんから了承いただいたので、役員同士でどういった話し合いにするかを協議し、そのうえで全体の話し合いを持つということでもいいか。

(一同了承)

では、そのように進めていきたい。

**【関清委員】**

町内会長は、普通から言えば町内会の活性化だとか高齢者が多いなど様々なことを気に掛けている立場であると思う。町内会を盛り立てていきたいという意識は一般的には理解できる。あえて人魚館を盛り立てていきたいという話には、何度も話は出ていると思うが、きちんとしたこちら側の意図、姿勢が大事であると思う。それをきちんと定義できなければ、先ほどのように受け止め方が薄くなってしまうと思う。

**【五十嵐郁代委員】**

話し合いの内容については、正副会長と事務局と協議いただき、打合せを進めた中で決めていっていただくことを第一段階としたいと思うがどうか。

(一同了承)

**【山岸敏幸委員】**

まずは町内会長協議会と地元市議会議員ということであったが、その点はどうなのか。

**【五十嵐郁代委員】**

次にそのことに触れていく。検討会では、地元の市議会議員にも話に加わっていただきたいという意見が出ていた。いろいろな意見があり、ひとつは町内会長協議会との話し合いで議員からは話し合いに加わってもらうのではなく傍聴していただく方法。もうひとつは実際に議員も加わって話し合いをする方法である。議員も加わっての話し合いでは、実際に進めていくとなったときに話が進めやすいという意見、逆に傍聴してもらう方法では議員の立場として話し合いに混じらないほうがいいのではないかという意見があった。検討会では、具体的にどうしたらいいというところまでは決めなかった。どのようにしたらいいか意見を出していただきたい。

**【佐藤忠治会長】**

毎回、議員が地域協議会の傍聴に来ている。今、市から市議会にJ-ホールディングスが今年度中に解散して残った4社をひとつにまとめようという話が出ている。その具

体的なものが我々には分からない。6月議会でその辺りの質問が出ているので、そういった話を地元の議員からお聞きしたく、町内会長協議会との我々の話し合いにオブザーバーとして同席していただきたいと思った。

**【熊木所長】**

まだ予定であるが、7月の地域協議会に担当課が説明に来ることになっている。そこで詳しい説明を聞くことができると思う。

**【君波豊委員】**

実は心配していた。新聞では4つの会社を1つにしてしまうと載っていたので、それによっては人魚館の立ち位置が大きく変わってくる。説明していただけるのなら我々もよく聞いて、場合によっては今後の動きも変わってくる。地域自治を進める地域協議会と町内会長協議会の意見交換が実現すれば、大湊区出身議員に声を掛けるのはいいと思う。そこで議員がそれぞれ受け取って動いていただければ、我々の活動に後方援助してもらえることにも繋がると思う。

**【五十嵐郁代委員】**

そこでは議員に意見を求めないということでもいいか。

**【君波豊委員】**

傍聴という形である。実態を見てもらうということだ。議員が話し合いに参加すると、議員に対して話をすることになるので困る。

**【五十嵐郁代委員】**

君波委員から意見があったがそれについていかがか。

(一同了承)

では、地域協議会と町内会長協議会の意見交換に地元の市議会議員にも声を掛けて傍聴していただくということでもいいか。

(一同了承)

話を戻すが、自主的審議の結論をいつまでにどうまとめるかだが、先ほど3つの方向性があると説明があった。今日、方向性の結論を出すか、町内会長協議会との話し合いの後で適切なやり方を検討して結論を出すのがいいか。

**【土屋郁夫委員】**

山岸委員も言われたように、様々な世代の方と意見交換が必要だと思う。先程出た小

中学生もいいが、その保護者からも一緒に参加してもらうことも考えられる。町内会長協議会との話し合いをやったうえで、健康増進施設として様々な世代の健康増進に役立てるにはどうしたらいいかなど、いろいろな持っていきかたがあると思う。それを最後にまとめて9月に出すには、もう少しいろいろな方と話し合いをしないと地域協議会としての意見がまとまらないと思う。今は人魚館の意見しか聞いていない。これから町内会長協議会と話し合いをするとある程度の意見は聞けるが、本当の利用者や応援したい人の意見は聞いていない。9月に向けて話し合いの機会をもう少し増やしていくのがいいと思う。話し合いでもワークショップでもいいが、やるのであればチームに分かれてやる方法もある。それは前々回に私が提案したが、町内会長協議会との話し合いの後、どういうやり方をしていくかという先の進め方を少し話しておきたい。以前出したのが、ワークショップ、サポート組織、イベントで部会方式を取り入れるなどして進めていくやり方である。

#### 【五十嵐郁代委員】

今の話は、5月26日に土屋委員から「鵜の浜人魚館の利活用促進今後のスケジュール（叩き台）」として提案していただいた中のスケジュール案である。このスケジュール案が進めると、今日は自主的審議事項をどのようにまとめるかという結論は出ないかと思う。今日はまとめずにもう少しいろいろな方向でワークショップや意見交換会を行ったうえでどれが適切かという判断をするということによろしいか。

#### 【土屋郁夫委員】

私がいろいろな施設を見て回った中で、もうキャンペーンは終わっているが新潟県も観光のファンクラブを募集してやっていた。こういったものに乗っていくとか、湯来さんぽというのがあるが、ここを回った後に温泉施設を利用したらどうかなどいろいろなやり方で外部へPRしていく方法はある。健康と観光を合わせた企画ができると思うので、いろいろな層の話を聞きたい。

#### 【五十嵐公子委員】

土屋委員の意見もわかるのだが、さっき出た親子でとか層を広げることには賛成だが、このスケジュールでは月に3回、4回と会合をもたないといけない。

#### 【土屋郁夫委員】

月に3回とかでなく、チームに分かれて取組んでいく。

#### 【五十嵐公子委員】

チーム別に動くということか。私は、小中学生の保護者であれば子どもにアンケートを持って行ってもらうとかでもいいのではないかと思う。保護者も集まっていただけかどうかも不透明である。あと利用者の意見ということであれば私も協力して聞いて回るので、時間もないのでアンケートを利用したらどうか。

#### 【五十嵐郁代委員】

土屋委員は項目ごとに班別に検討していったかどうかという意見であった。五十嵐公子委員からは、時間的な問題もあるのでアンケートを活用して広く意見を聞く方法を検討したらどうかという意見である。皆さんいかがか。

#### 【新保輝松委員】

スタートがおかしいような気がしていて、何を議論しているのか、何をしたいのか、さっぱり分からなくなってきた。欠席していた会議も有り申し訳なかったが、鵜の浜人魚館と話し合いをしてどんな結論が出たのか、これから町内会長協議会と話をし何を目指しているのか、私自身全く分からなくなってきた。本当に人魚館の活性化のために議論しているのか。我々は活性化するために何かいいアイデアがひとつでも浮かんできたのか。「これで行こう。」という結論が出たのかどうか。それが無いということを私も反省しないといけないが、いろいろ意見は出たが出しっぱなしである。これで皆に訴えていこうという気概がなかった。これから町内会長協議会と話し合いをして何か見えてくるのかという気持ちである。まとまりかけているところで申し訳ない。

#### 【五十嵐郁代委員】

素直な意見であり有難い。今のところこれと言ってまとまったところがないので、結論が出ないで話が行ったり来たりになって見えてこない部分もたくさんあると思う。土屋委員に質問する。検討項目を3つに分けて進めていくということだが、サポート組織とイベントに関しては6月、7月、8月にはまだピンとこないという気もする。土屋委員なりのイメージのようなものはあるか。サポート組織はたくさん意見が出ていたのでイメージは湧くのだが。

#### 【土屋郁夫委員】

イベントというのは、人魚館の経営側と打ち合わせをして場所を使ったり、季節ごとに実施することを打ち出して活性化に結び付ける具体策である。そういうことをやりた

いという委員がいればどんどんやっていきたいと思っている。サポート組織はどこでもやっていて、やっていないのがおかしいくらいのものである。人魚館だけの話でなく、大潟区を外部にPRする大きな枠で考えたほうがいい。人魚館ファンクラブとすると小さいと思うので、いろいろな所と連携したサポート組織がいいかもしれない。

#### 【俵木晴之委員】

スケジュールについて、五十嵐委員も新保委員も見えていないという意見があった。マイナスの発言になってしまうが、人魚館のことについては非常に難しく大変な問題である。それをこんな短時間で決めて終わらせてしまっているのかという気持ちがあった。土屋委員からいろいろ提案いただき有難いが、皆さんから出ている意見をもとに時間をかけてじっくりやってもいいのではないかと。

#### 【五十嵐郁代委員】

俵木副会長からもう少し時間を掛けてという意見、新保委員からも具体的なことが見えてこないという不安の話もあった。時間のことを言うところの時間でいいのかということに戻ってしまうが、この進め方でやっていくとして一度にはできない。優先順位を決めなくてはいけないと思う。その優先順位として町内会長協議会と話し合いをして共通認識を持つというところまでようやく来た。その先の話が全然進んでおらず、これをどのように検討して摺り合わせしていくかは話し合われていない。出た意見を土屋委員の提案のとおり分科会に分かれて精査するのがいいのか、全体の中で話しを揉んでいくのがいいのかを見据えながらご意見を頂ければと思う。具体的なものが見えていないので、意見の出しようがないところもあるが。

#### 【土屋郁夫委員】

前回、市から自主的審議事項の流れという資料が出ていた。この地域協議会が今まで出来ていないのは必要に応じた地域との意見交換である。課題の解決策の協議もできていないし、自主的審議事項にするのはいいが自分たちの中で終わってしまうので、それでは進めない。ようやく人魚館との意見交換を行ったが、この進め方では1年たっても2年たっても終わらない。だから9月に出そうとしているわけである。新保委員や俵木副会長が言われたが、「じゃあ、やりましょうよ。」ということだ。

#### 【君波豊委員】

前回、「スケジュールをこうしよう。」とお互い確認したわけである。スケジュールに



そって進んでも100点満点はない。取りあえず我々は人魚館の利活用を促進するという事で一人でも多くの方から利用してもらおうと話を進めている訳であるから、あまり話を広げないほうがいい。土屋委員が言われた子どもを含めた若い方の意見を聞くことは必要であると思う。また、人魚館で活動している人たちの代表者に「どうですか。」という聞き方もある。小中学校では夏休み前に保護者の集まり等がある。そのような場を利用して意見を聞いたり、書いてもらったりしてもいいと思う。少しでも広く意見を求めて進めたらどうか。対象者を集めて意見を聞くとなると大変な作業になる。

**【土屋郁夫委員】**

人魚館自身がアンケートの取り方を工夫してもらう提言をしたほうがいい。アンケート書いてもらう場所が奥まったところにあると聞いた。場所を工夫して意見を集めやすくする必要があるという話をしてもいいと思う。

**【五十嵐公子委員】**

人魚館から了解をもらえれば、地域協議会委員が自主的にアンケートを作って来館者に書いてもらってはどうか。アンケートを待っているのでは、書かずにスルーされてしまうのでこちらが作成して書いてもらう。仕事を持っている委員には負担となるかもしれないが、私も協力するので積極的に地域協議会委員として発信したらどうか。

**【五十嵐郁代委員】**

アンケートについていろいろ意見が出た。アンケートを実施するという事に対して皆さんどうか。

(一同了承)

いろいろな人の声を聞くためにアンケートは実施する。子ども会なり人魚館利用者なり、幅広いところにアンケートを依頼して書いていただく。また、皆さんの周りでちょっとした集まり等があればそこでお願いする。アンケートの中身についてだが、どのようにしたらよいかご意見をいただきたい。「これが聞きたい。」というものがあれば合わせて出していただきたい。

**【佐藤忠治会長】**

人魚館が行っているアンケートの内容を知りたいと思う。

**【五十嵐郁代委員】**

人魚館との意見交換の時の資料に「お客様の声」といったものが参考としてあった。

【佐藤忠治会長】

利用、スタッフの接客態度、ご意見・ご要望などの項目となっている。これと同じでは駄目だと思う。

【五十嵐郁代委員】

これと同じにする必要はないと思う。「どうしてもこれは聞いておきたい。」というものがあればそれと、今まで地域協議会で話し合ってきた中で、これは住民の皆さんに確認を取っておきたいという項目があればそれを載せるということではいかがか。性別は聞いてはいけないと思うが、年齢、区内、区外、利用などは載せることになる。

【土屋郁夫委員】

そのアンケートだとあまり役に立たないと思うので私が案を作りたいと思う。先日、新潟県立看護大学の先生を訪ねたのだが、健康増進施設として人魚館というのがあると話を聞いていたら、やはりきちんとした今までの現状分析もいるのではないかという話と、これから利用者を増やしていくためのアンケートでないと役立たないという話であった。先生と相談できるか分からないし、次回には間に合わないかもしれないがたたき台を作ってお示ししたい。

【五十嵐公子委員】

ぜひ来週水曜日までをお願いしたい。教室にもっていききたい。

【土屋郁夫委員】

まず、たたき台を五十嵐公子委員にお渡しする。健康づくりを本格的にやっているところは、利用者の声を集めることに相当力を入れているらしい。富山の健康パークで大々的に活動されていた先生なので再度話を聞いてアイデアをいただけてきたい。

【五十嵐郁代委員】

アンケートの素案を土屋委員が作成してくれるとのことだがお任せしてよろしいか。

(一同了承)

では、お願いします。アンケートができ次第ある程度声を集めて、それを地域協議会で精査するということになるがよろしいか。

(一同了承)

現在までの方向としては、アンケートを取って幅広い世代の人の声を聞くということと、町内会長協議会と話し合いをするが、それぞれの役員レベルでどんなことについて

話し合いをするかという打合せをするということだが、ここまでよろしいか。

(一同了承)

その後、どういった話し合いをするかを決めてワークショップを行う。その後、他団体とワークショップができるかどうかは時間との絡みもあり、町内会長協議会とのワークショップで出た意見によって変わってくると思う。そこについては皆さんと地域協議会で検討していきたいと思うがよろしいか。

(一同了承)

今日確認して検討することはこれで終わりだが、人魚館側がやってほしいことについて、検討会では住民とか有志に呼びかけるのがいいのではないかという意見があった。皆さんから秘策、名案があればご意見いただきたい。この場ですぐ意見がでなければ、人魚館側からのお願い事項ではあるが仮置きという形にしたいがどうか。

#### 【関清委員】

人魚館との意見交換で、「天候に左右される。」などいろいろ出ていた。私が感じているのは、人魚館が傾向をどのように把握しているかである。お風呂は悪天候の時に年配者が多く来る。例えば、なにかを呼びかける場合にそういう時にキャンペーンを実施するといいい。人魚館がそういう要素をきちんと整理して、どのように把握しているのか。日曜日にはプールに家族連れや若い人たちが来る。その層にどうアプローチしていくのか。例えば土日どんなサービスができるか。それらのことをたくさん経験されているのではないかと思う。そこを伸ばしていくことがとても大事だという気がする。いろいろ手を広げて皆さんから意見を出してもらいましょうと言っても、現時点で人魚館が可能性の柱があるかもしれないと思う。壁画もその一つかもしれない。そこを確認していくとか、我々も認識していく。そこから先、どのように伸ばしていけるか案が出てくるかを共有したい。

#### 【五十嵐郁代委員】

もう少し背景にあるものを自分たちで調査しながら掘り下げていったらいいのではという意見だと思う。

#### 【関清委員】

自分たちではなく、人魚館がどう把握しているかということである。

**【五十嵐郁代委員】**

人魚館が把握していることであれば、この後に人魚館との意見交換がどのくらいできるか分からないが、その中で深めていくということでは駄目なのか。

**【関清委員】**

いいと思う。

**【五十嵐郁代委員】**

では関委員から出た話は、今後人魚館との話し合いの中で深めていきたいと思う。関委員の天候や利用客についてはマーケティングに繋がる大事な要素であるので、それをアンケートに盛り込むなどの方法を考えながら調査したいと思う。アンケートの素案の中で盛り込めることがあれば盛り込んでいただきたい。他に意見はあるか。

**【土屋郁夫委員】**

看護大学の先生から大潟区担当の保健師は市全体の健康増進を考えている方なので、是非話を聞いたらどうかと聞いた。私としては地域協議会委員として話を聞きに行きアンケートの参考としたい。

**【五十嵐郁代委員】**

皆さんから今後検討していきたい事項があれば出していただきたい。

**【佐藤忠治会長】**

中学生などを対象に青少年育成会議があると思う。青少年育成会議の役員も大潟区の住民である。青少年育成会議の若い世代が人魚館をどう思っているのか聞いてみたい。

**【五十嵐郁代委員】**

ここから意見を聞きたい、アンケートを取ったらいいのではないかといった意見があれば出していただきたい。すぐ出なければ事務局に伝えていただきたい。参考にできれば、土屋委員がアンケートの素案に盛り込めるかもしれない。それぞれが活動している立場で、声掛けをしたほうがいい団体があれば教えていただきたい。

**【佐藤忠治会長】**

熱心な審議に感謝する。以上で協議事項を終了する。4 その他に移る。事務局から連絡事項等はあるか。

**【風間班長】**

6月29日に開催する頸北地区地域協議会委員合同市長懇談会の出欠報告をいただい

た。大潟区からは6人の委員が出席予定である。会場はユートピアくびき希望館であるが、詳細については追って連絡する。

**【土屋郁夫委員】**

次回の地域協議会での自主的審議事項の協議について項目だけでも整理していただきたい。アンケートは五十嵐公子委員に素案を渡して聞き取りをしてもらい、それで揉む。その以外に町内会長協議会との話し合いはもう終わっているとみていいか。

**【佐藤忠治会長】**

そうである。明日、町内会長協議会の定例会があるので事務局から話をしてもらい、役員同士の打合せの日程を相談していただく。

**【土屋郁夫委員】**

それ以外はどうか。

**【佐藤忠治会長】**

次回の地域協議会でグループに別れて3つのテーマ別に協議するかである。アンケートは6月中につくらなければならないので、それまでに人魚館に行って依頼もしないといけない。

**【土屋郁夫委員】**

そういうものを皆で共有できるインターネット上の場があるとやり易いし進みやすい。水澤主任にメールして皆さんにメールで配っていただき、「ここを直したほうがいい。」といった意見がもらえるなら水澤主任経由でやる。早め早めにやらないと時間がなくなる。

**【佐藤忠治会長】**

素案ができ次第、検討会を開催して揉んだほうがいい。その内容をメールやFAXで配布して確認してもらうのがいいと思う。地域協議会終了後、検討会の日程を決めたい。

**【君波豊委員】**

アンケートの内容は土屋委員に一任してもいいと思う。会長、副会長、事務局のチェックでOKであれば、それで進めてほしい。

**【佐藤忠治会長】**

アンケートの内容は土屋委員に一任でよいか。

(一同了承)

それでは、次回の協議会の日程案について事務局から説明願う。

**【柳澤次長】**

第5回地域協議会を7月28日木曜日午後6時30分から開催する。

**【俵木晴之副会長】**

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線201、216）

E-mail：ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。